

環境共生地域学特論 I (2単位)

担当者氏名 板垣啓四郎

◆学習・教育目標

環境共生地域学特論 I では、環境と共生した途上国の農業・農村開発をいかに進めるかに学習の焦点をおく。そのために、途上国の農業・農村開発に関わる既往の理論と開発手法・開発評価手法をレビューする。また具体的ないくつかの事例を取り上げ、環境と共生した開発のあり方と課題を実態的に明らかにし、そこから新たな開発理論を導出することを心がける。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

農業・農村開発理論 技術・制度変化の経済学 農業の普及と人材教育 農業・農村開発政策
農産物貿易 環境共生の経済学 外部環境条件 市場システムとその限界

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	環境共生地域学の課題 (第1～2週)	・環境共生地域学研究の範囲と課題	本授業のねらいは、環境と共生した途上国農業開発の理論とアプローチを得ることにかけている。院生自らが自己の研究課題に即してそれに応用できる理論と方法を習得することが望まれる。教員と学生、学生相互の論議を重視する。講義中の積極的な取り組み姿勢が最も重要である。
2	農業開発理論の系譜 (第3～6週)	・様々な開発理論の枠組みと説明力 ①古典派アプローチ	
3	農業と環境保全 (第7～8週)	②新古典派アプローチ ③制度学派アプローチ	
4	農業開発の手法と評価 (第9～11週)	・農業・農村に与えられた外部環境条件 ・農業・農村に与えられた外部環境条件の変化	
5	農業開発の事例研究(第12～15週)	・農業開発のための内生変数と開発のモデル化 ・農業・農村開発の開発手法と成果に対する評価 ・農業開発の事例(アジア) ・農業開発の事例(アフリカ) ・農業開発の事例(ラテン・アメリカ) ・総括と展望	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)
講義の間に紹介する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)
講義の間に紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業参加の熱意と課題レポートに基づき評価する。

◆その他受講上の注意事項

- ・授業では英語の文献と資料を用いる。
- ・開発経済学に対する素養が事前に備わっていることが望ましい。